

2019年12月期
第3四半期累計(1月1日～9月30日)
連結決算の概要

花王株式会社

2019年10月30日



KaO

自然と調和する ところ豊かな毎日をめざして

このプレゼンテーション資料はPDF形式で当社ウェブサイトの『投資家情報』に掲載しています。

www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/presentations/

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 当社グループは、2019年12月期第1四半期よりIFRS第16号「リース」を適用しています。
- 資料のカッコ()内の数字はマイナス

2019年1-9月の概況と今後の見通し

- 化粧品事業は、日本・アジアともに引き続き好調。グローバル戦略ブランドG11の売上高は対前年同期+18%、リージョナル戦略ブランドR8は+11%の成長。
戦略ブランドの新製品や展開地域拡大、Eコマース(EC)・トラベルリテールの強化等によりさらなる成長をめざす。
- スキンケア・ヘアケア事業では、スキンケア製品は日本で全身洗剤の新製品が好調。米州では厳しい競争環境が続く。ヘアケア製品はシャンプー・コンディショナーのマス市場縮小が続く中、日本と欧州でプレミアム市場に新製品・改良品を投入。米州ではヘアサロン向けブランドが好調。
スキンケア製品は日本とアジアの強化と米州の回復、ヘアケア製品は日本と欧米でプレミアムラインの強化をはかる。
- 生理用品「ロリエ」は日本と中国、インドネシアで売上成長が続く。ベビー用紙おむつ「メリーズ」は、回復傾向にあるが計画に未達。インドネシアでは引き続き売上・シェアを拡大。日本では中国新EC法や元安により中国への転売縮小が続く、対前年減収減益。越境ECを含む中国の売上は引き続き前年に未達だが、転売業者の在庫調整が進み、回復傾向。元安やマーケティング投資もあり対前年で大きく減益。
日本では引き続き国内ユーザーの獲得、中国ではECの強化とプレミアム化によりブランド力向上と成長をめざす。
- ファブリック&ホームケア事業は、日本で消費税率引き上げへの対策により衣料用洗剤の9月店頭売上は市場伸長を上回る。ホームケア製品は競合攻勢を受けるも堅調。
日本で発売した衣料用洗剤「アタック ZERO」は年末に向けトライアルを喚起しシェア拡大をはかる。すまいの除菌シリーズ「クイックル Joan」の新提案等でさらなる拡大をはかる。
- ケミカル事業は天然油脂価格の下落や海外の経済成長鈍化の影響により売上高は前年を下回る。
高付加価値事業の拡大と費用の効率化により、営業利益は過去最高をめざす。
- 消費税率引き上げにともなう駆け込み需要は想定を下回ったが、10-12月は新製品・改良品の発売による需要喚起をはかり、売上・利益を拡大して2019年12月期連結業績予想の達成をめざす。

連結決算のハイライト

市場^{※1} (2019年1-9月)

- ・国内トイレタリー市場伸長率^{※2}: SRI+5ポイント/SCI +10ポイント
- ・国内化粧品市場伸長率^{※3}: SRI+3ポイント/SLI+7ポイント
- ・国内トイレタリー15カテゴリー消費者購入単価^{※4}: +2ポイント

連結経営成績 第3四半期連結累計期間 (1-9月)

【億円】	2018年度	2019年度	前年比%	前年差
売上高	10,978	11,093	+1.0	+115
		為替の影響 ^{※5}	(1.1)	(123)
		為替の影響を除く実質	+2.2	+238
営業利益	1,422	1,510	+6.2	+88
営業利益率	13.0%	13.6%	-	-
税引前利益	1,419	1,494	+5.3	+75
当期利益	1,006	1,051	+4.4	+45
親会社の所有者に帰属する当期利益	994	1,036	+4.2	+41
EBITDA(営業利益+減価償却費+償却費)	1,868	1,995 ^{※6}	+6.8	+127
基本的1株当たり当期利益(円)	202.97	213.99	+5.4	+11.02

※1 SRI: 全国約3千店の小売店POSデータによる推計 / SCI: 全国約5万人の消費者モニターによる購入実績データ / SLI: 全国約4万人の女性モニターによる化粧品・スキンケア・ヘアケア製品の購入実績データ [(株)インテージが実施するパネル調査]

※2 化粧品を除くコンシューマープロダクツ / 対前年同期比 [SRI/SCI調べ]

※3 対前年同期比 [SRI調べ/SLI調べ(花王定義にて集計・インバウンド分は調査対象外)]

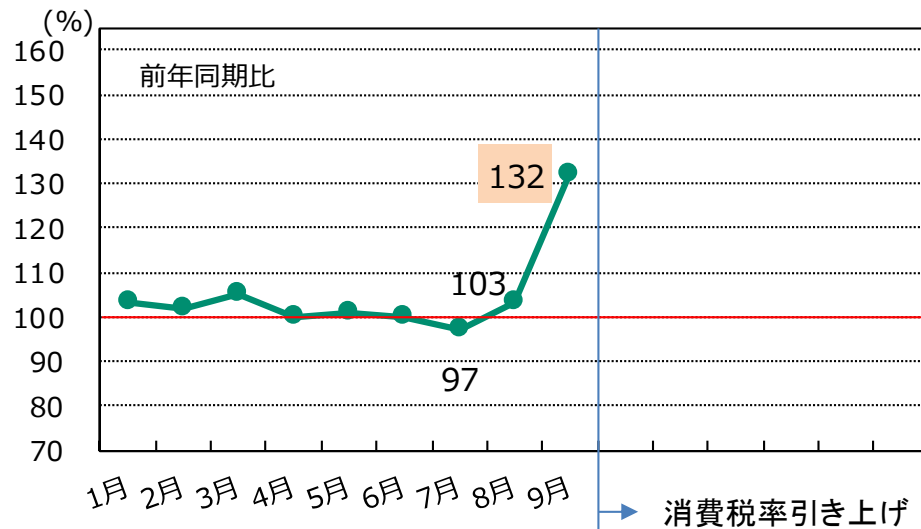
※4 対前年同期比 [SRI調べ]

※5 為替レート: 米ドル=109.12円 / ユーロ=122.66円 / 中国元=15.91円

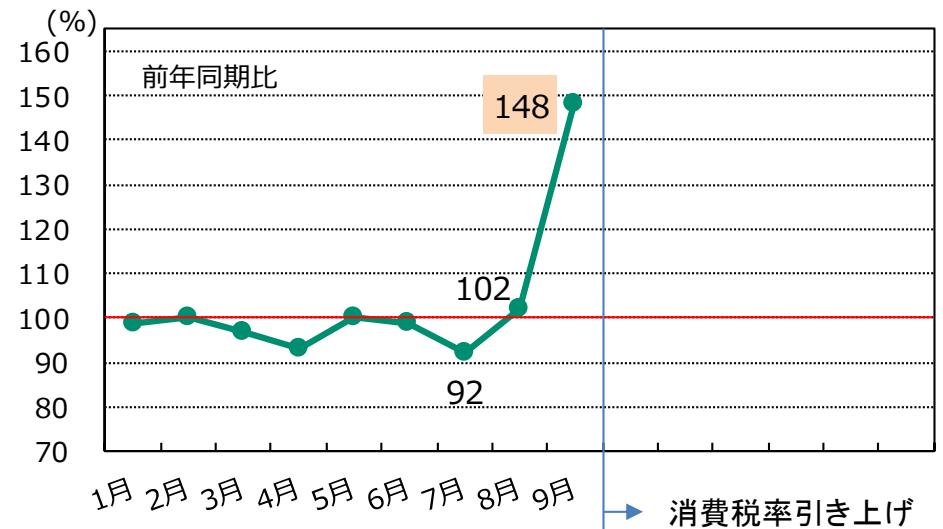
※6 使用権資産の減価償却費を除く

国内コンシューマープロダクツ市場の状況

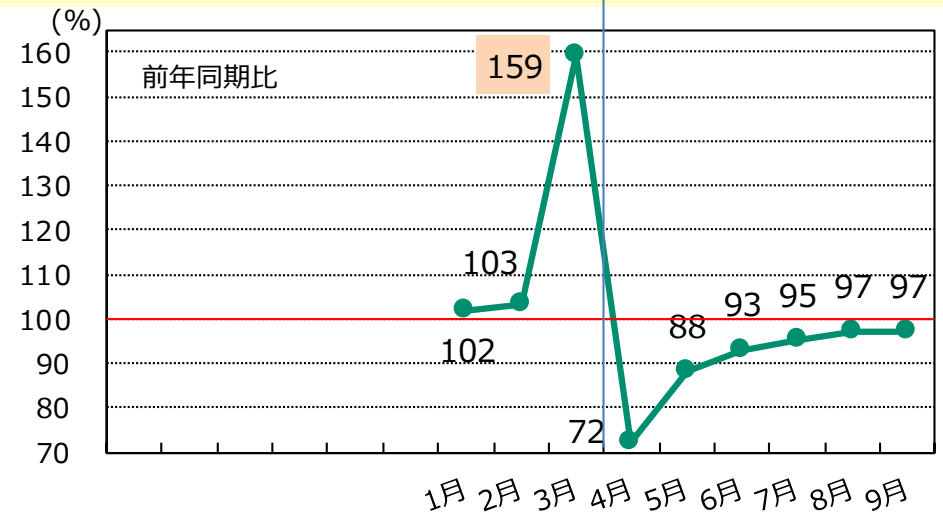
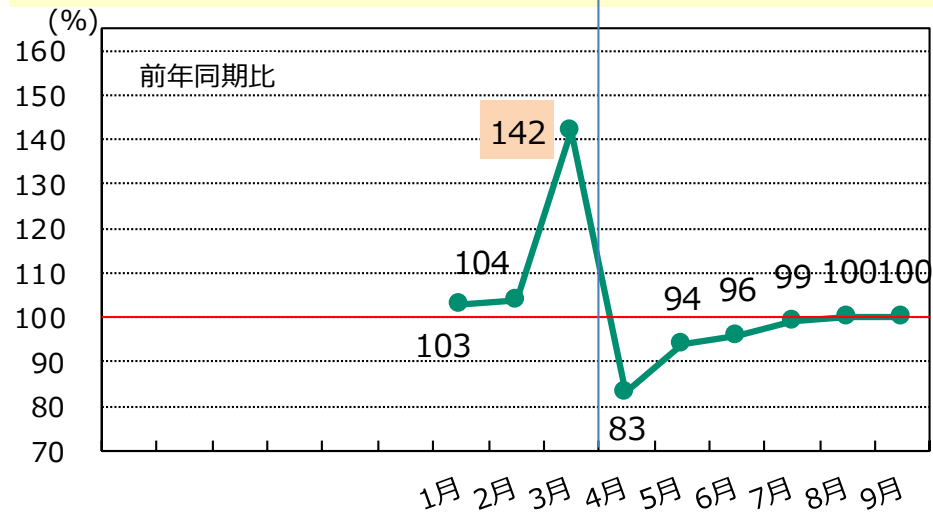
・国内トイレタリー^{※1}市場伸長率(金額ベース)



・国内化粧品市場伸長率(金額ベース)



前回消費税率引き上げ時(2014年)

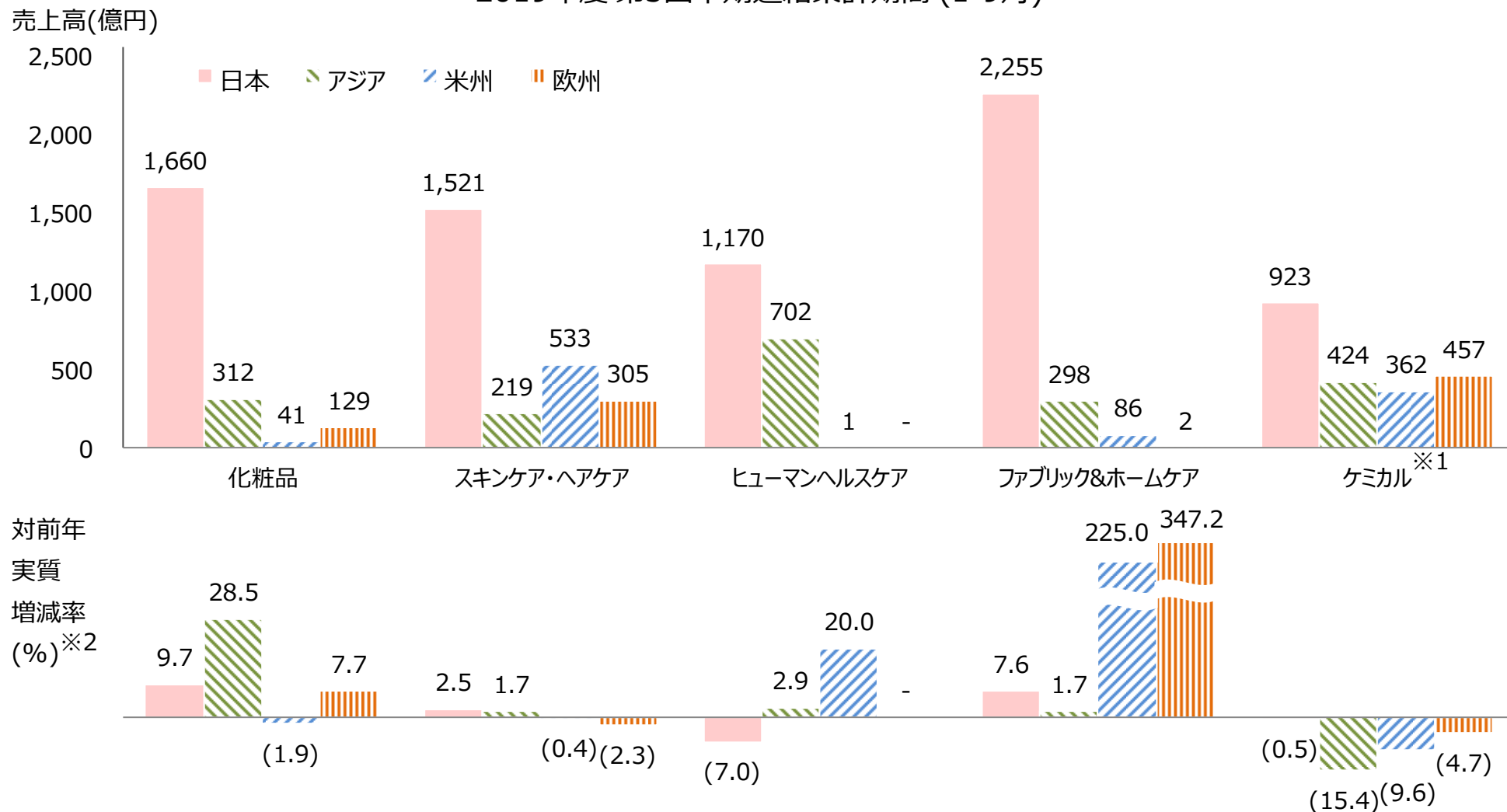


※1 化粧品を除くコンシューマープロダクツ

(株)インテージSRI調べ(全国約3千店の小売店POSデータによる推計)

販売実績

2019年度 第3四半期連結累計期間 (1-9月)



※1 ケミカル事業の売上高はセグメント間取引を含んでいます

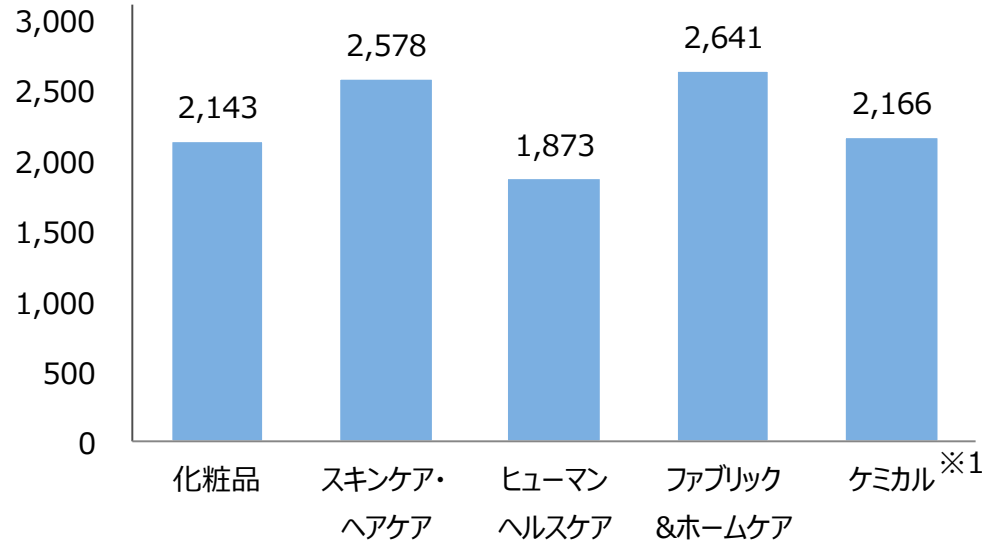
※2 為替変動の影響を除く実質増減率

地域別の売上高は販売元の所在地にもとづき分類しています

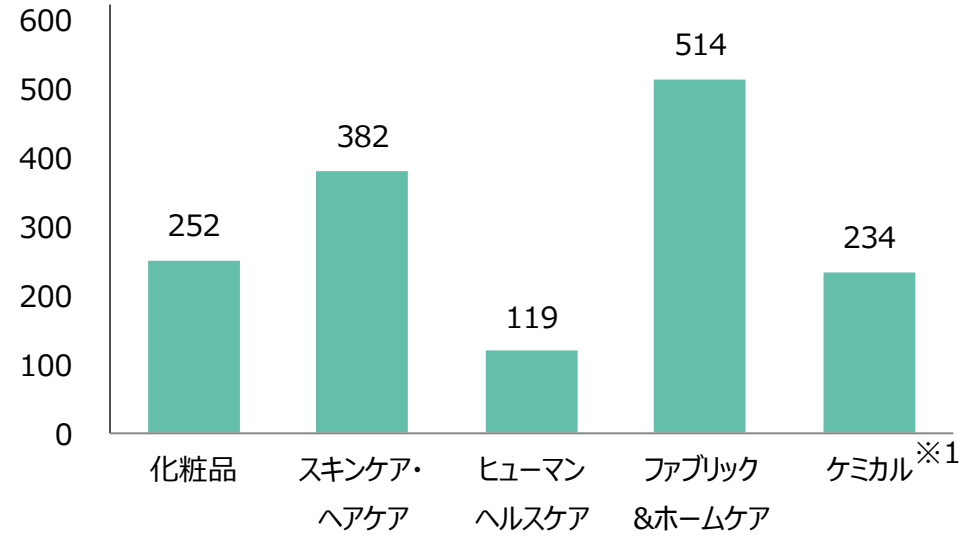
セグメントの業績

2019年度 第3四半期連結累計期間 (1-9月)

売上高(億円)



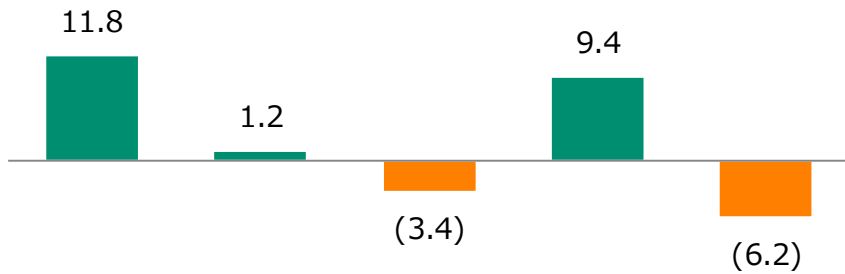
営業利益(億円)



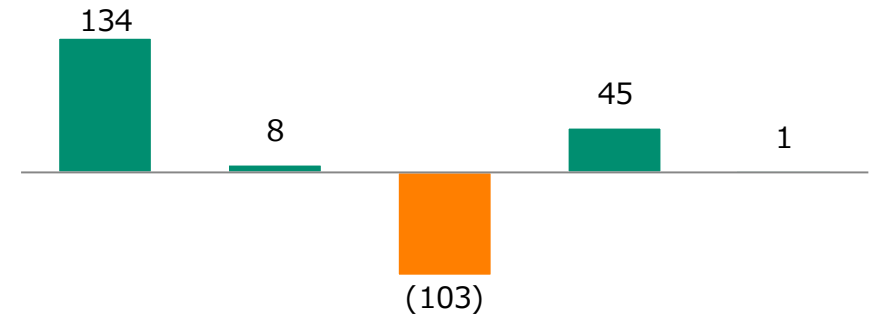
営業利益率(%)

11.7 14.8 6.4 19.5 10.8

対前年
実質
増減率
(%)※2



対前年
増減
(億円)



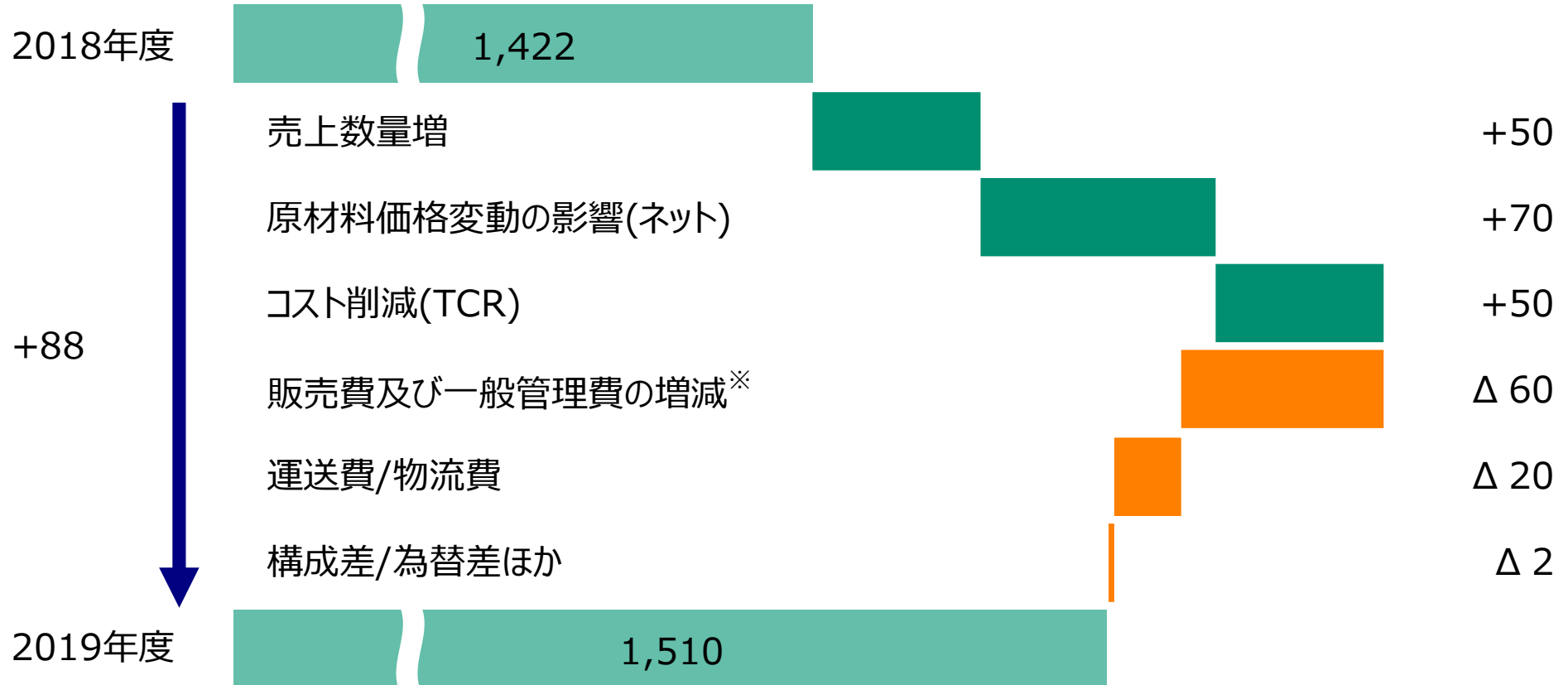
※1 ケミカル事業の売上高・営業利益はセグメント間取引を含んでいます

※2 為替変動の影響を除く実質増減率

連結営業利益増減分析

【億円】

第3四半期連結累計期間 (1-9月)



※ 為替変動の影響を除く実質増減

IFRS第16号「リース」適用の影響

当社グループは、2019年12月期第1四半期よりIFRS第16号「リース」を適用しています。

従来オペレーティング・リースとして会計処理されていたリース契約について、使用权資産とリース負債を連結財政状態計算書で計上しています。

期首移行金額	連結財政状態計算書		(億円)
	資産	負債及び資本	
	使用权資産	リース負債	+1,674
	その他	その他	Δ 19
	IFRS第16号適用影響計	計	+1,655

これによる2019年12月期第3四半期の連結損益計算書および連結キャッシュ・フロー計算書への影響は下記の通りです。

第3四半期	連結損益計算書		連結キャッシュ・フロー計算書
売上高	-		税引前利益 Δ 6
リース料	+161	(減)	減価償却費 +155
減価償却費	Δ 155	(増)	営業活動によるキャッシュ・フロー +149
営業利益	+6		投資活動によるキャッシュ・フロー -
金融費用(支払利息)	Δ 12	(増)	リース負債の返済 Δ 149
税引前利益	Δ 6		財務活動によるキャッシュ・フロー Δ 149
			現金及び現金同等物の増減額 -